

「ヨハネへの啓示」と現代の私たち

「この預言の言葉を朗読する人.....は、幸福である」。啓示 1:3 この預言の言葉を朗読する人と、それを聞き、書かれている事柄を守る人たちは、幸福である。定められた時が近いからである。

15 番の歌 神の初子を賛美しましょう

何を学ぶか*私たちはわくわくするような時代に生きています。「啓示」の書に載せられている預言が実現しているからです。この預言は私たちとどんな関係があるのでしょうか。この記事と続く2つの記事では、「啓示」の書について幾つかの点を考えます。私たちの崇拝をエホバ神に受け入れていただくためには、「啓示」の書に書かれていることを守る必要がある、という点についても学びます。

1-2. 私たちが「啓示」の書に注意を向けるべきなのはなぜですか。

誰かから写真のアルバムを見せてもらったことがありますか。写真を見ていくと、写っているのはほとんどが知らない人ばかりです。でも、1枚の写真に目が留まります。自分が写っていたからです。その写真を見て、いつどこで撮ったものだろうか、写っている人たちは誰だろうか、と考えることでしょう。その写真はあなたにとって特に意味のあるものとなります。

2 「啓示」の書はこの写真のようです。なぜそう言えるのでしょうか。少なくとも2つの理由があります。まず1つ目に、「啓示」の書は私たちのために書かれました。最初の節にこうあります。「イエス・キリストによる啓示。これは神が、間もなく必ず起きる事柄をご自分の奴隷たちに示すため、イエスに与えたものである」。(啓 1:1 イエス・キリストによる啓示(意味：明らかにすること/覆いを取ること)。これは神が、間もなく必ず起きる事柄をご自分の奴隷たちに示すため、イエスに与えたものである。イエスは天使を遣わし、その天使を通して、しるし(*)によって自分(if*神)の奴隷ヨハネにこの啓示を伝えた)ですから、「啓示」の書は全ての人のために書かれたのではなく、神に献身した私たちのために書かれたものです。私たちは神に仕える者なので、「啓示」の書の預言の実現に関係しているとしても、驚くことではありません。私たちはいわば“写真に写っている”のです。

3-4. 「啓示」の書によると、その預言が実現するのはいつですか。そのことを考えると、私たちはどんなことを行う必要がありますか。

3 2つ目の理由は、この預言がいつ実現するかということと関係があります。高齢の使徒ヨハネはその点についてこう述べました。「私は聖なる力によって主の日に連れていかれ.....た」。(啓 1:10) ヨハネがこの言葉を書いたのは西暦96年ごろで、「主の日」はまだずっと先のことでした。(マタ 25:14 それはちょうど、外国へ旅行に出る際に、奴隷たちを呼び寄せて、自分の持ち物を委ねた男性のようです、19 長い時がたち、主人が来て、預けたお金について奴隷たちに確認しました。ルカ 19:12 それでこう言

った。「ある高貴な生まれの男性が、王権を確立して戻るために遠くの土地へ旅行に出ました」①聖書の預言によると、主の日は始まったのは、イエスが天の王国の王となった1914年のことです。その年以來、神に仕える人たちと関係のある「啓示」の書の預言が実現し始めました。それで、私たちは今まさに「主の日」に生きているのです。

4 私たちはこのわくわくするような時代に生きているのですから、啓示1章3節にある愛情のこもったアドバイスに特に注意を向ける必要があります。そこにはこうあります。「この預言の言葉を朗読する人と、それを聞き、書かれている事柄を守る人たちは、幸福である。定められた時が近いからである」。②ですから私たちは、「この預言の言葉を朗読[し]」、「聞き」、「守る」必要があります。では、私たちが守るべき言葉にはどんなものがあるのでしょうか。

エホバに受け入れられる崇拝を捧げる

5 「啓示」の書からすると、エホバに受け入れられる崇拝を捧げることが大切だと言えるのはなぜですか。

5 「啓示」の書の最初の章から分かる通り、イエスはクリスチャン会衆でどんなことが起きているかをよく知っています。（啓1:12-16 私は、誰が私に話し掛けているのかを見ようとして振り向いた。すると、7つの金のランプ台が見えた。13 それらのランプ台の真ん中に、人の子のような方がおり、足まで届く衣服を着て、胸に金の帯を締めていた。14 その方の髪の毛は白い羊毛のように、また雪のように白く、目は燃える炎のようだった。15 足は炉の中で輝いている良質の銅のようであり、声は大きな滝(d*多くの水)の音のようだった。16 その方は右手に7つの星を持ち、口からは長くて鋭い両刃の剣が突き出ており、顔はさんさんと輝く太陽のようだった、
20 あなたが私の右手にあるのを見た7つの星と、7つの金のランプ台に関する神聖な秘密は、次の通りです。7つの星は7つの会衆の使者たちを表し、7つのランプ台は7つの会衆を表しています; 2:1 エフェソスにある会衆の使者に書き送りなさい。右手に7つの星を持ち、7つの金のランプ台の間を歩く者が、こう言います）そのことは、イエスが小アジアの7つの会衆に向けて述べた言葉から分かります。それには、1世紀のクリスチャンがエホバに受け入れられる崇拝を捧げるためにどんなことをすべきか、具体的な指示が含まれていました。その内容は、神に仕える現代の私たち全てにも当てはまるものです。どんなことを学べるのでしょうか。私たちの指導者であるキリスト・イエスは、私たちとエホバとの関係が良いものであるかどうかをよく知っているということです。イエスは私たちのことを見守っていて、全てのことをご存じです。私たちが引き続きエホバに良いと認めていただくにはどうしたらよいかもよく知っています。では、現代の私たちはイエスが与えたどんな指示を守る必要があるのでしょうか。

6. (ア) 啓示2章3, 4節のイエスの言葉からすると、エフェソスの会衆にはどんな問題がありましたか。(イ) そこから何を学べますか。

6 啓示2:3, 4 さらに、あなたはよく忍耐しており、私の名のために辛抱してきました。疲れ果ててはいません。4 しかし、とがめるべき点があります。あなたが、初めの頃に抱いていた愛を失ったことを読みます。(ア) エホバに対して初めの頃に抱いていた愛を失ってはいけません。エフェソスの会衆に向けてイエスが述べた言葉から、エフェソスのクリスチャンが忍耐を示し、さまざまな問題がある中でもエホバに仕え続けていたことが分かります。とはいえ、彼らはエホバに対して初めの頃に抱いていた愛を失

っていました。(イ)それで、その愛を再び燃え立たせる必要がありました。そうしなければ、崇拜をエホバに受け入れていただくことができなくなってしまうからです。同じように現代の私たちも、ただ単に忍耐するのではなく、正しい動機で忍耐する必要があります。エホバは私たちが何を行うかだけでなく、それをなぜ行うかに関心を払っています。エホバが私たちの動機に注目しているのは、私たちが深い愛と感謝の気持ちからご自分を崇拜することを願っているからです。(格 16:2 人には自分の道はどれも正しく思えるが、エホバは動機を調べる。マル 12:29, 30 イエスは答えた。「第一はこうです。『聞きなさい、イスラエル、私たちの神エホバはただひとりのエホバであり、30 あなたは、心を尽くし、知力を尽くし、力を尽くし、自分の全てを尽くして、あなたの神エホバを愛さなければならない』」)

7. (ア) 啓示 3 章 1-3 節からすると、サルデスのクリスチャンはどんな問題を抱えていましたか。(イ) 私たちは何を行う必要がありますか。

7 啓示 3:1-3 サルデスにある会衆の使者に書き送りなさい。神の 7 つの聖なる力と 7 つの星を持つ者が、こう言います。『私はあなたの行いを知っています。あなたは生きているといわれていますが、実は死んでいます。2 目を覚まさない。そして、死にかけている残りの人たちを力づけ(*残りのものを強め)なさい。あなたの行いは私の神から見ても十分であるとは言えません。3 それで、あなたが受けたものや聞いたことについて常に考え(*思い起こし)、それを守り続けて、悔い改めなさい。あなたが目覚めないなら、私は必ず泥棒のように来ます。私がどの時刻にあなたの所に行くか、あなたには決して分かりませんを読む。いつも目覚めていなければいけない。(ア)サルデス会衆の兄弟姉妹は別の問題を抱えていました。彼らは、以前はエホバに仕える面で活発でしたが、手を緩めるようになっていました。それでイエスは、「目覚め」るようにと言いました。どんな教訓を学べるのでしょうか。(イ)確かに、エホバは私たちの働きを忘れたりはありません。(ヘブ 6:10 皆さんはこれまでずっと聖なる人たちに仕え、今も仕え続けています。そのようにして、神の名を愛していることを示してきました。神は不公正な方ではないので、そうした働きや愛を忘れたりはありません)しかし、だからといって、これまでの奉仕に満足して手を緩めてよいわけではありません。以前と比べてできることは少なくなっているかもしれませんが、「主の活動」を忙しく行い、終わりまで目覚めている必要があります。(コリ 15:58 それで、私の愛する兄弟たち、しっかり立って、動じることなく、主の活動をいつも活発に(*たくさん)行ってください。皆さんが知っているように、主のために働くことは無駄ではないのです。マタ 24:13 しかし、終わりまで耐え忍んだ人が救われます。マル 13:33 ずっと見ていて、目を覚まさない。あなたたちは、定められた時がいつかを知らないからです)

8. イエスがラオデキアのクリスチャンに述べた言葉から何を学べますか。(啓示 3:15-17)

8 啓示 3:15-17 『私はあなたの行いを知っています。あなたは冷たくも熱くもありません。冷たいか熱いかのどちらかであってほしいと思います。16 あなたが生ぬるく、熱くも冷たくもないので、私はあなたを口から吐き出そうとしています。17 あなたは、「私は裕福で、富を得た。何一つ必要なものはない」と言いますが、自分が惨めで、痛ましく、貧しく、目が見えず、裸であることに気付いていません。エホバへの崇拜を熱心に心を込めて行わなければいけない。イエスの言葉から、ラオデキアのクリスチャンが別の問題を抱えていたことが分かります。彼らはエホバへの崇拜の面で「生ぬるく」なっていました。そのためイエスから、「惨めで、痛まし」い状態だと言われました。彼らは、エホバへの熱い思いを抱き、エホバへの崇拜を熱心に行う必要がありました。(啓 3:19 私は愛する人を戒め、矯正します。それで、

悔い改めて熱心になりなさい) どんなことを学べるでしょうか。自分の熱意が弱まっているように感じるなら、エホバや組織から与えられているものに対する感謝を深めるようにしましょう。(啓3:18 火で精錬された金と、白い衣服と、目薬を私から買うように勧めます。金は、豊かになるために、白い衣服は、それを着て裸の恥をさらさないために、目薬は、それを塗って見えるようになるためにです) 快適な生活を追い求めるあまり、エホバへの崇拝を二の次にするようなことがあってはいけません。

9. ペルガモンとテアテラのクリスチャンに対するイエスの言葉からすると、私たちは何を退ける必要がありますか。

9 背教者の教えを退けなければいけない。イエスは、ペルガモンの一部のクリスチャンが分裂を引き起こしていたことをとがめました。(啓2:14-16 しかし、とがめるべき点が幾つかあります。あなたの所にはバラムの教えを固く守っている人たちがいます。バラムの教えを受けたバラクは、イスラエル人が罪を犯すように仕向けました。彼らが偶像に犠牲として捧げられた物を食べ、性的に不道德な行為(*)をするようにしたのです。15 また、あなたの所にはニコラオ派の教えを固く守っている人たちもいます。16 ですから、悔い改めなさい。そうしないなら、私は速やかにあなたの所に行き、私の口から出る長い剣で彼らと戦います) 一方、テアテラの会衆のうち、「サタンの奥深い事柄」を退けていた人たちを褒め、真理を「しっかり守」るよう強く勧めました。(啓2:24-26 テアテラにある会衆のほかの人たち、つまり、イゼベルの教えに従っておらず、いわゆる「サタンの奥深い事柄」を知らない人たちには、こう言います。私はほかの重荷をあなたたちに負わせることはしません。25 ただ、私が行くまで、あなたたちが持っているものをしっかり守りなさい。26 征服する人、私が命じたことを終わりまで守り通す人に、私は国々を治める権威を与えます) これらの会衆の弱くなっていたクリスチャンは、間違った教えに惑わされていたので、悔い改める必要がありました。現代ではどうでしょうか。私たちは、エホバの考え方に反する教えを一切退けなければなりません。背教者は、「信心深く見えても実際には神を敬っていません」。(テモ二3:5 信心深く見えても実際には神を敬っていません。こういう人たちから離れなさい) 聖書を熱心に研究するなら、間違った教えを見分けてそれを退けることはいっそう容易になるでしょう。(テモ二3:14-17 あなたは、自分が学び、納得して信じるようになった事柄から離れないようにしなさい。あなたはそれを誰から学んだかを知っており、15 幼い時から聖なる書物に親しんできました。その書物はあなたを賢くし、キリスト・イエスへの信仰による救いを得られるようにします。16 聖書全体は神の聖なる力(*)の導きによって書かれたもので、教え、戒め、矯正し、正しいことに基づいて指導するのに役立ちます。17 それにより、神に仕える人は十分な能力を持つことができ、あらゆる良い活動を行う用意が完全に整います。ユダ3、4 愛する皆さん、私は、私たちに共通の救いについて書き送りたいと強く願っていました。しかし、聖なる人たちに一度限り伝えられた信仰のために真剣に戦うよう、皆さんに勧める必要があると分かりました。4 なぜなら、皆さんの中に、聖書によってずっと前から有罪とされていた人たちが紛れ込んでいるからです。その人たちは神への敬意がなく、私たちの神の惜しみない(*過分の)親切に付け込んで恥知らずな行い(*ギ語アセルゲイア)をし、私たちの唯一の所有者(*主人)である主イエス・キリストに不忠実です)

10. ペルガモンとテアテラの会衆に対するイエスの言葉から、さらに何を学べますか。

10 どんな不道德も行ったり大目に見たりしてはいけない。ペルガモンとテアテラのクリスチャンは、別の問題も抱えていました。イエスは、それらの会衆の一部の人が不道德を退けなかったことをとがめました。(啓2:14 しかし、とがめるべき点が幾つかあります。あなたの所にはバラムの教えを固く守っている人たちがいます。バラムの教えを受けたバラクは、イスラエル人が罪を犯すように仕向けました。彼らが

偶像に犠牲として捧げられた物を食べ、**性的に不道德な行為(*)**をするようにしたのです、[20](#)しかし、とがめるべき点があります。あなたがあの**イゼベルのような女性を容認**していることです。彼女は**女預言者だと自称し、私の奴隷たちを教えて惑わし、性的に不道德な行為(*)をさせ、偶像に犠牲として捧げられた物を食べさせています**) いろんなことを学べますか。私たちは、**不道德を行ってもエホバは大目に見てくださる**、などと**考えるべきではありません**。長年エホバに仕えてきて、会衆や組織で多くの責任を委ねられているとしてもです。(サムー [15:22](#) サムエルは言った。「エホバの言うことに従うよりも、動物を焼いて捧げた方が、エホバは喜んでくださるのでしょうか。いいですか。**犠牲よりも、従うことが重要**であり、雄羊の脂肪よりも、注意を払うことが重要なのです。[ペテー 2:16](#) 自由の民らしくあってください。**悪い行いを覆い隠す(*悪いことを行う言い訳)のために自由を用いてはなりません。あくまでも神の奴隷として自由を用いてください**) **世の中の道德基準がどれほど低下**しようと、エホバは私たちが**高い基準を保つことを願**っています。(エフエ [6:11-13](#) **悪魔の策略(*ずる賢い行為)**にしっかり立ち向かえるように、**神からの武具を全て身に着け**ましょう。12 私たちは戦って(d*格闘をして)いるからです。**人間とではなく、政府や権威、この闇の世の支配者たち、天にいる邪悪な天使の勢力と戦**っています。13 それで、神からの武具を全て身に着けなければなりません。そのようにして全ての準備を整えるなら、悪い時代の中で身を守ることができ、しっかり立てます)

11. ここまででどんな点を学びましたか。(「[得られる教訓](#)」の囲みも参照。)

11 ここまででどんな点を学んだでしょうか。私たちは**エホバに受け入れられる崇拝を捧げなければ**なりません。**自分がエホバに喜ばれないことを行っている**ことに気付いたなら、**すぐに正す必要があります**。(啓 [2:5](#) それで、自分がどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの頃にしていたことを行いなさい。もしそうせず、悔い改めないなら、私はあなたの所に行って、あなたの**ランプ台を取り去ります**、[16](#) ですから、**悔い改めなさい**。そうしないなら、私は速やかにあなたの所に行き、私の口から出る**長い剣で彼らと戦**います。[3:3](#) それで、あなたが受けたものや聞いたことについて常に考え(*思い起こし)、それを守り続けて、悔い改めなさい。あなたが目覚めないなら、私は必ず泥棒のように来ます。私がどの時刻にあなたの所に行くか、あなたには決して分かりません、[16](#) **あなたが生ぬるく、熱くも冷たくもないので、私はあなたを口から吐き出そうとしていま**す) では、イエスが小アジアの会衆に向けて語った別の点にも注目してみましょう。

I. 7つの会衆に対するイエスの言葉から、どんなことを学べますか。

得られる教訓

- **エホバに対して初めの頃に抱いていた愛**を失ってはいけない。
- **いつも目覚めて**いなければいけない。
- エホバへの**崇拝を熱心に心を込めて行**わなければいけない。
- **背教者の教えを一切退**けなければいけない。
- どんな**不道德**も行ったり大目に見たりしては**い**けない。

喜んで迫害を忍耐する



サタンは天から投げ落とされた後、神に仕える人たちをどのように攻撃してきたか。(12-16節を参照。)

II. 迫害に備える必要があるのはなぜですか。

12. イエスがスミルナとフィラデルフィアのクリスチャンに語った言葉から何を学べますか。(啓示 2:10)

12 イエスがスミルナとフィラデルフィアのクリスチャンに語った言葉を考えてみましょう。イエスは、迫害を恐れてはいけなと述べました。忠実を保つなら報われるからです。(啓示 2:10 受けようとしている苦しみを恐れてはなりません。悪魔は、あなたたちのうち幾人かを牢屋に投げ込んでいきます。そのようにして、あなたたちは十分に試され、10 日の間苦難に遭います。たとえ死ぬことになっても、忠実であり続けなさい。そうすれば、あなたに命の冠を与えますを読む。啓 3:10 あなたが私の忍耐に関する言葉を守った(*私の忍耐の手本に従った)ので、私も、世界中で生じる試練の時にあなたを守ります。その時に、地上に住む人たちは皆、試されます) どのようなことを学べますか。私たちは迫害に遭うことを覚悟し、それを喜んで忍耐する必要があります。(マタ 24:9 その時、あなたたちは苦難を味わい、殺されます。私の名のために全ての国の人々から憎まれます、13 しかし、終わりまで耐え忍んだ人が救われます。コリ二 12:10 私は、弱いところ、侮辱、窮乏、迫害、困難を、キリストのために喜びます。私が弱い時、私には力があるからです) この点を思いに留めておくべきなのはなぜでしょうか。

13-14. 神に仕える人たちは、啓示 12 章で述べられている出来事からどんな影響を受けますか。

13 「啓示」の書は、神に仕える人たちが「主の日」に、つまり現代に迫害を受けることを述べています。啓示 12 章によると、神の王国が設立された直後、天で戦争が起きます。ミカエル(栄光を受けたイエス・キリスト)が忠実な天使たちと共に、サタンや邪悪な天使たちと戦います。(啓 12:7, 8 そして、天で戦争が起こった。ミカエル(誰が神のようだろうか)と天使たちが竜と戦ったのである。竜と邪悪な天使たちも応戦した。8 しかし彼らは勝つことができず(if*竜は敗れ)、天に彼らの居場所はなくなった) サタンと邪悪な天使たちは戦いに敗れ、地の近辺に投げ落とされます。その結果、地とそこに住む人たちに大きな苦しみをもたらされます。(啓 12:9 こうして、大きな竜は投げ落とされた。あの初めの蛇で、悪魔サタンと呼ばれ、全世界を惑わしている者である。彼は地に投げ落とされ、邪悪な天使たちも共に投げ落とされた、12 それで、天とそこに住む者たち、喜びなさい! 地と海には災いが降り掛かります。悪魔が、自分に残された時間が短いことを知り、大きな怒りを抱いてあなた方の所に下ったからです) では、神に仕える人たちはどんな影響を受けるのでしょうか。

14 「啓示」の書には、サタンが次にどんな行動を取るかが述べられています。サタンはもはや天に行くことができないので、自分の怒りを、天に行くクリスチャンのうち地上に残っている人たちに向けます。彼らは、神の王国を地上で代表する人たちであり、「イエスについて証言する務めを与えられてい」ます。（啓 12:17 それで竜は女に対して激怒し、彼女の子孫(d*種)のうちの残っている人たち、すなわち、神のおきてを守り、イエスについて証言する務めを与えられている人たちと戦うために去っていった。コリ二 5:20 私たちはキリストの代理をする大使であり、あたかも神が私たちを通して訴え掛けているかのようです。私たちはキリストの代理としてこう懇願します。「神と和解してください」。エフエ 6:19, 20 私のためにも祈ってください。私が口を開くときに適切な言葉が出てくるように祈っていただければ、私は良い知らせの神聖な秘密を大胆に語って人々に知らせることができます。20 私は良い知らせを広める大使であり、今は鎖につながれています。良い知らせについて大胆に語れるように祈ってください。私は大胆に語らなければならないのです）この預言はどのように実現してきたのでしょうか。

15. 啓示 11 章に出てくる「2 人の証人」は誰を表していますか。彼らにどんなことが起きましたか。

15 サタンは、王国の良い知らせを伝える面で率先していた天に行くクリスチャンたちを攻撃させました。それらの人のうち主立った兄弟たちは、「啓示」の書の中で「2 人の証人」として表されています。この証人は殺されることが預言されていました。*「ものみの塔」2014 年 11 月 15 日号 30 ページの「読者からの質問」を参照。（啓 11:3 私は、私の 2 人の証人に粗布をまといさせ、1260 日の間預言させます。7-11 2 人が証言を終えると、底知れぬ深みから上ってくる野獣が彼らと戦い、彼らを征服して殺す。8 2 人の遺体は、比喩的な意味でソドムまたエジプトと呼ばれる大きな都市の大通りに置かれる。彼らの主もその都市で杭に掛けられて死んだのである。9 さまざまな種族や民族や言語や国の人々は、3 日半の間その遺体を見る。そして、遺体が墓の中に横たえられることを許さない。10 地上に住む人々は 2 人のことで喜び、祝って、贈り物を交わす。この 2 人の預言者が地上に住む人々を苦しめたからである。11 3 日半の後、神からの生命力(*命の息)が 2 人に入り、彼らは立ち上がった。それで、2 人を見た人々は非常に恐れた）1918 年、大きな責任を担っていた 8 人の兄弟たちが、偽りの告発によって有罪とされ、長期間の刑を言い渡されました。人間の観点からすれば、彼らの活動は“死んだ”かのように見えました。

16. 1919 年にどんな驚くべきことが起きましたか。その時以降も、サタンはどんなことを行っていますか。

16 啓示 11 章の預言によると、「2 人の証人」はしばらくして生き返ることになっていました。この預言の通り、兄弟たちが投獄された次の年に驚くべきことが起きました。1919 年 3 月、8 人の兄弟たちは釈放され、後に告発が取り下げられたのです。兄弟たちはすぐに宣教活動を再開しました。とはいえ、これでサタンの攻撃が終わったわけではありません。この時以降、サタンは神に仕える全ての人に対して、「川」に例えられている迫害を引き起こしてきました。（啓 12:15 蛇は、口から水を川のように女の後ろに吐き出して、彼女を溺れさせようとした）そのため、私たち全てには「忍耐と信仰が必要」になります。（啓 13:10 捕らわれることになっている人は、捕らわれる。剣で殺す人(if* 剣で殺されることになっている人)は、必ず剣で殺される。そのため聖なる人たちには忍耐と信仰が必要になる）

エホバから委ねられている活動に励む

17. 神に仕える人たちはサタンの攻撃を受けているにもかかわらず、思いも寄らないどんな助けを得てきましたか。

17 啓示 12 章によると、神に仕える人たちは思いも寄らないところから助けを与えられます。「地」が迫害の「川」をのみ込むのです。（啓 12:16 しかし、地が女を助けた。地は口を開けて、竜の口から吐き出された川をのみ込んだのである）実際、その通りになってきました。時には、サタンの世界のより安定した部分である司法制度などに助けられてきました。何度も裁判で有利な判決を得て、ある程度の自由を勝ち取ってきたのです。では、この自由をどのように用いているでしょうか。エホバから委ねられている活動を行うために十分に活用しています。（コリ 16:9 反対する人も多くいますが、私の前に活動への大きな扉が開かれているからです）その活動にはどんなものが含まれるでしょうか。



神に仕える人たちが伝えているメッセージには、どんな 2 つの面があるか。（18-19 節を参照。）

Ⅲ. 神に仕える人たちは、この終わりの時代にどんな活動を行う必要がありますか。

18. この終わりの時代に私たちが行うべき重要な活動は何ですか。

18 イエスは、自分に従う人たちが「[神の]王国の良い知らせ」を終わりが来る前に世界中で伝える、と予告しました。（マタ 24:14 そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます）その際、彼らは天使からの助けを得ることができます。天使は、「地上に住む人々、すなわち、あらゆる国や民族や言語や種族の人々に伝える、永遠の良い知らせ」を携えています。（啓 14:6 そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます）

19. エホバを愛する人たちは、どんなメッセージも伝える必要がありますか。

19 神に仕える人たちが伝えるべきなのは、王国の良い知らせだけではありません。彼らは、啓示 8 章から 10 章に出てくる天使たちの活動もサポートする必要があります。それらの天使たちは、神の王国を退ける人たちにどんな災いが臨むかを告げています。それで、エホバの証人は「ひょうと火」のようなメッセージを伝え、サタンの邪悪な体制のさまざまな要素に対する神の裁きを知らせています。（啓 8:7 第 1 の天使がラッパを吹いた。すると、血が交じった、ひょうと火が生じ、それが陸地に投げ付けられた。陸地の 3 分の 1 が焼き尽くされ、木々の 3 分の 1 が焼き尽くされ、全ての青草が焼き尽くされた。13 さらに見ていると、1 羽のワシが空高く（d*中天を）飛びながら大声でこう言うのが聞こえた。「地上に住む人

には、災い、災い、災いがあります！あと3人の天使が間もなくラッパを吹き、残りのラッパの音が響き渡るからです」）人々は、終わりが近いということを知る必要があります。生き方を大きく変化させるなら、エホバの怒りの日を生き残ることができるからです。（ゼパ 2:2, 3 布告が施行される前に、その日もみ殻のように過ぎ去る前に、エホバの燃える怒りがあなたたちに降り掛かる前に、エホバの怒りの日があなたたちに訪れる前に、3 エホバのもとに行け、地上の全ての温厚(*謙遜)な人たち、神の正しい規定を守る人たちよ。正しいことをせよ。温厚(*謙遜)であるようにせよ。エホバの怒りの日にあなたたちは隠されるだろう）とはいえ、このメッセージは受けの良いものではありません。ですから、このメッセージを伝えるには勇気が必要です。そして、大患難の時に伝えられる最終的な裁きについてのメッセージは、いっそう痛烈なものとなるでしょう。（啓 16:21 さらに、重さ 20 キロほどの大きなひょうが天から人々の上に降り、人々はひょうの災厄のゆえに神を冒瀆した。その災厄が甚大な被害をもたらしたからである）

預言の言葉を守る

20. 続く 2 つの記事ではどんなことを取り上げますか。

20 私たちは「啓示」の書の預言の実現と関係があるので、「この預言の言葉」をぜひとも守る必要があります。（啓 1:3 この預言の言葉を朗読する人と、それを聞き、書かれている事柄を守る人たちは、幸福である。定められた時が近いからである）では、忠実を保って迫害を忍耐し、エホバから委ねられているメッセージを大胆に伝え続けるために、どんなことができるでしょうか。次の 2 つの点を考えることが役に立ちます。（1）「啓示」の書が神の敵たちについて述べていることと、（2）忠実を保つ人に与えられる祝福です。続く 2 つの記事で、これらの点を取り上げます。

どのように答えますか

I. 7 つの会衆に対するイエスの言葉から、どんなことを学べますか。

II. 迫害に備える必要があるのはなぜですか。

III. 神に仕える人たちは、この終わりの時代にどんな活動を行う必要がありますか。

32 番の歌 エホバの側に立つ

^ (啓 1:3) この預言の言葉を朗読する人と、それを聞き、書かれている事柄を守る人たちは、幸福である。定められた時が近いからである。